

2019年9月17日  
国立研究開発法人国立国際医療研究センター  
株式会社日立製作所

**コミュニケーションロボット「EMIEW3」を活用した  
“入院説明業務補助・代行の医療従事者負担軽減効果”の評価研究を開始**  
国立国際医療研究センター病院 入退院支援センターで患者100人規模で実施



入退院支援センターでの説明の様子

国立研究開発法人国立国際医療研究センター(理事長: 國土典宏 / 以下、NCGM)と株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO: 東原 敏昭 / 以下、日立)は、日立のコミュニケーションロボット「EMIEW3(エミュースリー)」を入院患者に対する説明支援に活用した効果の評価研究を2019年8月23日に開始しました。本研究は、患者100人を対象に、約3カ月の予定で行います。

多くの医療機関では、看護師をはじめとした医療従事者は、入退院に関する手続きや注意事項等、患者への定型的な説明に多くの時間を費やしています。医療従事者の業務負担軽減は長年の政策課題であり、NCGMでも医療従事者の働き方改革を推進しています。働き方改革ではタスクシフティング(業務移管)は有効な手段と考えられ、医師事務作業補助者の拡充や看護補助者の活用などが進められています。また、少子高齢社会で医療従事者も不足しており、ロボットやAI等を活用したタスクシフティングも検討が進んでいます。

本研究は、具体的には、国立国際医療研究センター病院の入退院支援センターにおいて、入院の際、従来どおり医療従事者が説明を行う患者 50 人と、説明の一部を「EMIEW3」が代行する患者 50 人、合計 100 人について、医療従事者の説明対応時間や負担感を比較し、ロボットの導入効果を評価します。また、患者の満足度等も調査し、ロボットによる説明を患者が受け入れられるか、その実現性を評価します。なお、本研究は、同意した患者を対象に、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて実施されます。

「EMIEW3」はこれまで、駅や空港、商業施設等で運用が行われてきましたが、医療現場で説明業務に焦点をおいた研究を行うのは今回が初めてです。

NCGM と日立は、本研究を通じて、ロボットと人間が調和した未来の医療機関における、よりきめ細かな患者への医療サービスの提供をめざします。

#### 【「EMIEW3」について】

「EMIEW3」は、日立が 2016 年 4 月に開発したコミュニケーションロボットです。リモートブレイン構成のロボット IT 基盤と連携することで、柔軟な拡張と業務システムとの連携を行うことができます。多言語会話と自律走行機能を有しており、特に、公共空間での利用に求められる雑音環境下での音声認識性能に特長があります。これまで、駅や空港、商業施設等、さまざまな施設において運用を行っています。

#### 【NCGM と日立との連携協定について】

NCGM と日立は、2018 年 9 月に連携協定を締結し、手術室の高度化や医療従事者の働き方改革を中心に幅広い分野で連携して研究開発を進めています。

具体的な連携分野として、以下を設定しています。

1. 次世代型外科手術室の開発
2. 働き方改革の推進
3. 先端技術を活用した医療現場の改善

今回の研究を通して、先端技術が「働き方改革の推進」に寄与することが期待されています。

■本件に関するお問い合わせ先

国立国際医療研究センター病院 入退院支援センター

センター長 徳原 真(とくはら まこと)

電話:03-3202-7181(内線 2081)

E-mail: mtokuha@hosp.ncgm.go.jp

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

株式会社日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット 外科治療ソリューション本部 [担当:秋丸、吉光]

〒110-0015 東京都台東区東上野二丁目 16 番 1 号 上野イーストタワー

電話:03-6284-3092(直通)

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---